

Title	「第四回日韓神学者学術会議」について
Author(s)	阿久戸, 光晴
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.59, 2015.3 : 13-14
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5485
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

「第四回日韓神学者学術会議」について

聖学院大学総合研究所副所長・所長代行 阿久戸 光晴

二〇一四年一月七日（金）、聖学院大学と韓国長老会神学大学校による第四回日韓神学者学術会議の「日韓神学シンポジウム二〇一四」が聖学院大学にて行われた。

二〇〇八年九月に聖学院大学・大学院・総合研究所と韓国長老会神学大学校との間に交流協定が結ばれた。この時、長老会神学大学校から「日韓神学者学術会議」の提案があり、第一回は二〇〇九年三月一〇日、ソウル・長老会神学大学校にて行われ、主題は「欧米神学とアジア神学」であった。第二回は二〇一二年一月二日、聖学院大学（聖学院本部会議室）において、「モルトマン神学の受容をめぐる」を主題として行われた。第三回は二〇一三年一〇月二五日、ソウル・長老会神学大学校において、「現代における苦難の問題——大災害、悲嘆、死」を主題として開催された。

また、聖学院大学総合研究所では、長老会神学大学校との協定に基づき、「日韓キリスト教会交流（関係）史に関する日韓共同研究」を二〇一〇～二〇一二年度に行っている。この共同研究の成果は順次『紀要』に掲載されてきた。共同研究の経緯については『紀要』五五号別冊（「日韓教会交流史」特集号）「はじめに」にまとめられているのでご覧いただきたい。

二〇一三年度からは、両大学の学生が相互訪問する学生交流も始められた。二〇一三年十二月一八日には、長老会神

学大学の金明容総長先生が、聖学院大学のクリスマス礼拝説教のためにご来日くださり、その機会に併せて学術講演会が開催され、「教会と政治」と題してご講演いただいた。この講演の翻訳は『紀要』五八号に掲載されている。

「いのちの尊厳の確立」を主題にした今回のシンポジウムは、玄曜翰（ヒョン・ヨハン）長老会神学大学教授に奨励をいただいたチャペルでの全学礼拝に続いて、聖学院大学ヴェリタス館教授会室で行われた。開会挨拶で姜尚中学長は、東日本大震災とまだ記憶に新しい韓国セウォル号事件の共時性に触れ、いのちの尊厳はあるのか？と問いかけられ、尊厳とは、一人の人間が大切であるという感覚（Sense of self importance）を持つことであるとし、それがもたらされるための、悲しむこと、苦しむこと、悩むことができるという霊的なものの存在に触れられた。

セセッションでは、聖学院大学の菊地順教授（大学チャプレン）の司会、鄭鎬碩特任講師の通訳により、窪寺俊之教授の講演「傷ついた魂へのスピリチュアルケア」と、それに対する尹哲昊（ユン・ Cholホ）長老会神学大学教授によるコメント発表が行われ、その後、参加者も交えた活発な討議がなされた。

続くセセッションでは、窪寺俊之教授の司会のもと、鄭鎬碩特任講師の通訳により、朴成奎（パク・ソンギユ）長老会神学大学校助教授による「生命の危機的時代にいのちの尊厳を確立するための神学的対案の模索」と題する講演が行われた。講演後、姜尚中学長および阿久戸光晴よりコメントが述べられ、質疑応答がなされた。

今後もうこうした学術的対話が続けられ、東アジアの平和構築へとつながることを願う。